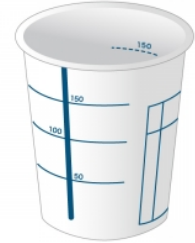


## ～ 尿検査について ～

患者さんにとってなじみの深い検査の一つとは「尿検査」でしょう。健康な人の場合、尿の成分はほぼ一定に保たれていますが、病気にかかると尿に出るはずの成分が出なかったり、逆に、健康な時に出ないはずの成分が出てしまったりします。

尿検査で正しい結果を得るためには「中間尿」を採尿することが大切です。中間尿とは尿の出始めと終わりを除いて、途中の尿を採ることです。



### ● 尿定性（試験紙）検査がキャッチするカラダのSOS

尿定性検査をすることによって、からだのいろいろなことがわかります。

**タンパク質**：タンパク質が出る。これは腎臓病の疑いがあります。検査する場合には、寝る前に尿をして次の朝起きてすぐの尿を調べるのが理想です。必要な場合には早朝尿を持参してもらう場合があります。健康な人でも激しい運動や、厳しい寒さの影響で一時的に出る場合もあります。

**ブドウ糖**：ブドウ糖が出た場合には、糖尿病の疑いがあります。健康な人の尿にもブドウ糖が出ることもありますので、血液を調べて確認する必要があります。

**潜血**：尿に血液が含まれると腎臓や尿路が悪いというサインです。たくさん含まれた場合は肉眼でも赤く見えますが、わずかな時は潜血といい、試験紙でも調べられます。生理前後の尿は特に含まれやすいので、きちんと伝えてから検査を受けましょう。

**白血球**：尿に現れた白血球は腎臓や尿路に炎症を知らせるサインです。炎症は細菌による感染、尿路の腫瘍や結石、またアレルギーや薬などが原因で起こります。

**亜硝酸塩**：亜硝酸塩は尿路感染症のサインです。尿中に細菌がいることを表します。健康な人の膀胱にある尿は無菌状態です。細菌の数が著しく増えた場合、検出されます。出ている細菌を調べるために再採尿をお願いする場合があります。

**ケトン体**：栄養を十分に摂れていない時、ケトン体が出ます。食物中の脂質が肝臓で代謝されてできるのがケトン体。栄養が充分でないと脂質をエネルギーにするためケトン体が増え、尿に出てきます。

**ウロビリノーゲン**：大量に出たら肝臓に障害がある疑いがあります。ウロビリノーゲンはビリルビンが変化したものです。健康な人の尿にも少量含まれていますが、大量に出た場合には肝臓に障害があることが考えられます。

**ビリルビン**：ビリルビンが出たら肝臓疾患や胆管閉塞の疑いがあります。ビリルビンは赤血球からつくられたもの、肝臓の障害や胆道が詰まっているとビリルビンが尿に出てくるのです。

**pH**：尿が酸性かアルカリ性を示します。普通は弱酸性です。食べ物や運動でも変化します。身体に余分な酸やアルカリがあれば外に出して一定の状態を保とうとします。繰り返し調べると何かの病気で体のバランスが崩れていることが分かります。

**比重**：尿の濃さを表します。尿の中に溶けている物質の割合が比重です。尿の量が少なく、比重も低い場合は腎臓の機能が低下し、異常があると考えられます。

以上が尿定性検査の項目です。

**尿を検査することは昔から重要とされ、「尿は診断の門」ともいわれています。尿検査は私たちの体内の変化を知る重要な方法といえるでしょう。**